

令和元年度 自己評価表

松山南高等学校（砥部分校）

学校番号 21

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	さわやかな目・豊かな心・確かな手を育てる 夢を育み、志高く個性を伸ばす教育の推進 －生徒一人一人を大切にしたい指導の実践－
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	授業相互参観実施への環境整備。 生徒アンケートの回答「授業内容がよくわかる・わかる」:90%以上。	B	生徒アンケートの回答「授業内容がよく分かる・ほぼ分かる」は94%であった。特に「よく分かる」はこの3年上昇している。 授業相互参観票は活用できなかった。	授業相互参観を実施できる環境を整える。 「授業内容がわからない」生徒に対する指導を研究する。
		学力の格差に対応した個別指導 各教科の素点・評点の標準偏差20以下 センター試験の得点率5割以上。	B	2学期評点の標準偏差総平均は13.3であったが、44科目中標準偏差が20を超えた科目が3科目存在した。 センター試験は概ね5割を超えたが、英語・数学の一部について及ばなかった生徒がいた。	引き続き、成績不振者に対する指導を続けるとともに、受験に必要な科目に対しての個別指導を早期に開始し、充実させる。
	デザイン技術の習得	校外展への応募一人:2点以上。 校外展入賞:65点以上。 県展入選出品数の:70%以上。 全国規模の公募に積極的に出品し、入選・入賞。	B	秋季県展の入選率は全体では大きく変わらなかったが、学年により入選率の低下がみられた。また、特選・推奨の数も減少した。 全国規模の公募ではファッション系の成果が多少あったが、従来入賞していた愛鳥週間ポスターや選挙ポスターでの入賞はなかった。	県展の指導方法や、夏休み課題の取り組み方などについて科会で十分話し合い、効果的な指導法を科員全員が共通認識する。 作品指導については生徒との信頼関係を重視し、複数の教員が関わるなどの体制も工夫する。
		デザイン専門科目での基礎・基本を重視する。 外部依頼などの実践的なデザインワークに積極的に取り組み成果を上げる。	B	以前から取り組んでいる絵馬奉納などのほかに、四国がんセンターホスピタルアート、西予市米博くらわんか茶碗デザイン、伊予マーク陶板壁画などの充実した取組が数多くあった。	外部依頼に対して特定の担当者のみが対応しているので、複数人担当制にして内容の検討や引き継ぎ等ができるようにする。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	端正な身だしなみとさわやかな挨拶の励行を通して、「地域の範となる砥部分校生」を育成する。	B	校内外において、自発的な挨拶の習慣が身に付いている。 各自で自覚を持ってきちんとした身だしなみができるようになっている。	外来者や地域の方・保護者にさわやかな挨拶ができるよう、マナーの向上を図っていく。 登下校時や校外活動時の自転車交通マナー向上の啓発をする。
		欠席者:1日平均1.5人以内。 遅刻者:1日平均1.5人以内。 1か年皆勤者率:35%以上。	C	欠席者1日平均4.0人、遅刻者1日平均3.6人、皆勤率14.2%と昨年より悪化した。	長期欠席者や病気による体調不良の生徒がいるため、目標を達成できなかった。 家庭との連携は図れており、状況に応じて対応できている。
	交通安全指導の充実	交通事故0件。 自転車乗車時のヘルメット着用率:100%。	B	交通事故3件、通学時のヘルメット着用率100%(アンケートによる) 通学以外の着用率18.4%(アンケートによる)	自動車との接触事故が3件発生した。通学時以外のヘルメット着用の啓発を粘り強く行い、自発的な着用を図る。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	美大等を中心とする上級学校へ進学し、高いスキルを身に付けようとする意識を育てる。 志望校への合格率:100%。	B	高い志を掲げ、難関芸術(美術)大学や一般学部の4年制大学受験志向が定着しつつある。 推薦・AOだけでなく一般入試受験者も増加した。	1・2年生のオープンキャンパス参加を推奨する。 担任による個人面談の充実と全職員の連携により、一人一人を見つめた進路指導を推進する。
		進路ガイダンス等に多く参加させると共に、実技や教科の補習を充実させ、進路目標を確立させる。	B	年2回の進路ガイダンスに加え、年1回の美術大学による実技指導・ワークショップを実施。	生徒の目的意識と進学意欲をより高めるため、高大連携による実技指導を充実させるとともに、普通科目の重要性を強く認識させる。
	就職指導の充実	就職講座を継続的に実施することにより、職業観を育成する。 就職希望会社への合格率:100%。	B	進路課就職担当者の充実した個別面接及び就職対策一般教養指導により、学校斡旋による就職希望者の就職率は100%。	基本的な生活習慣の確立を図る指導を継続。特に、遅刻欠席をしない、気持ちの良い挨拶、学習時間の確保について、日常の学校生活の中で全職員で指導する。
豊かな心の育成	人権教育の充実	人権を尊重した環境作りといじめを防止する集団を作る。 いじめ発生:0件。	B	部落差別を考えるフォーラムに全校で参加し、生徒の意識や理解が深まった。 いじめSTOPフォーラムに生徒会役員、人権委員が参加し、会の運営の補助や閉会宣言を行うなどし、いじめ防止への意欲が高まった。いじめ0件。	生徒一人一人を見つめた教育の推進を継続する。 様々な機会を捉えて仲間意識を育てるとともに、生徒の人権・同和問題への意識を高め、主体的に問題解決に取り組める集団作りをする。
	自尊意識の育成	学期に1回以上行う面談や制作活動、学校行事等を通して、自尊意識を高め、社会性を育てる。	B	制作活動や特別活動でそれぞれが活躍の場をもち、自己有用感を高め、仲間との触れ合いを通して社会性を育むことができた。	生徒の様子をよく観察し、生徒の気持ちに寄り添った指導、支援を継続する。一人一人の個性を認め、長所を更に伸ばすことにより、自信をもって学校生活を送れるようにする。
	心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成	「オール松山南高」関連行事への生徒の参加率100%。 「オール松山南高」の意義を理解できた生徒の割合70%以上。	B	分校文化祭での本校生の発表や「オール松山南高」での芸術文化発表会、共同研究等とおして交流の輪を広げることができた。	卒業制作展と「オール松山南高」での芸術文化発表会を同日開催として、全日・定時・分校の生徒が交流できる今年度の方法を踏襲し、「オール松山南高」の意識を高める。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	PTA活動への参加率30%以上。 PTA総会・講演会への参加率35%以上。	B	PTA理事会・研修旅行・懇親会等への参加や、文化祭でのPTAバザーへの協力等、役員のみでなく30%以上の保護者に何らかの形で行事に関わっていただいた。 PTA総会の参加率は33.3%だった。	保護者と学校のつながりをさらに大切にし、PTA役員の協力を得ながら、保護者に学校行事やPTA活動への参加・協力を求める。 機会をとらえて本校PTAとの交流を進める。
	地域貢献の推進	地元砥部町及び地域との連携・交流による制作活動年間5件以上	A	四国がんセンターのホスピタルアート、ふるさとCM大賞の砥部町PR動画、西予市米博物館のくらわんか茶碗など、砥部町や地域と連携した制作を5件以上行った。	引き続き、砥部町、砥部焼共同組合、砥部町社会福祉協議会など、地域との連携を強めていく。 他校や近隣地域との連携・協力も深める。
	広報活動の改善・充実	体験入学・中学校出張説明会に全教員で取り組む。 「PTA便り」の改訂。 ホームページアクセス数1日200以上。	A	広報活動を県下全域の中学校に広げ、分校をアピールした。ホームページアクセス数は1日250程度を維持している。 「PTA便り」の発行時期を変更し、内容も改訂・充実させた。	中学校への広報活動を継続し、説明会等にも全教員で取り組む。 ホームページも高いレベルを維持する。引き続き「PTA便り」の充実を図る。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。